令和４年度 第２回 海岸工学委員会 幹事会　議事録

開催日時：2023 年 4 月 11 日（火）14:00-17:45
開催場所：土木学会講堂＋zoom によるハイブリッド開催
出席者：
【土木学会講堂】佐々木委員長，森副委員長，北野幹事長，荒木，有川，遠藤，内山，加藤，川崎，桐，下園，高川，田島，西畑，安田，渡部【zoom】有働，越村，鴫原，瀬戸口，坪野，中下，原田，山城，渡辺，李
議事録：桐，北野

■佐々木委員長挨拶（省略）
■前回議事録の確認
・前回幹事会の議事録（WEB 公開済）を確認した。

■派遣委員の交代
水工学委員会への派遣委員（山城先生→五十里先生）
環境システム委員会のリエゾン委員（山中先生 → 遠藤先生）
B 部門合同編集小委員会（山中先生，五十里先生）→（山中先生，遠藤先生）

■第 69 回海岸工学講演会報告(北野)
参加数：海岸工学講演会 1,074 名、企画セッション 254 名、見学会 40 名
多数の方にご参加いただき、意見交換をしていただいた。

■第 70 回海岸工学講演会論文審査（山城）
・登録論文数：219 編（投稿 221 編、取り下げ 2 編）
・内訳：通常：219（和文：208［うち英文タイトル本文日本語 1 編］，英文：11）
・過去 5 年は 2022 年 248、2021 年 258、2020 年 306、2019 年 321、2018 年 312 編
・査読者割り当て：9.4 編／人
・査読受諾意思確認：幹事 22 名，海岸委 9 名，編集委 31 名，その他 54 名の計 122 名に依頼し、断られた数： 5 名，回答無し：1 名の 116 名で査読を実施。
・査読者平均点：3.78 点で少しずつ高くなっている。（和文と英文で偏りなし。）
・通常論文の採択について
　　幹事会で議論し、A 案（16 点以上を採択：採択論文数：200 編）に決定した。
（2022 年 226 編，2021 年 230 編，2020 年 265 編, 2019 年 273 編, 2018 年 267 編）
・１点の採点があった論文について
　　１段審査は講演会での発表の可否を決定するためのものであり、第１段では採択

し、２段審査で採否を決定する。

・投稿数と採択数、分野別投稿数・採択数・採択率の推移が報告された。

投稿数は第 50 回くらいから減少。A 案の採択率は 91.3%で昨年（91.1%）並み。

・２件の投稿が取り下げ

単著で２編の投稿し（講演会で発表できるのは１人１編のみ）

投稿者がタイトルと異なる要旨 PDF をアップロード（査読者の指摘により締切り直前に判明し、投稿者と相談し取り下げた）

・1 ページ目に著者情報が記載されている要旨 8 編あり。（Extended abstract とのフォーマットの混同.）

・昨年度はシステムから査読者登録通知メールが届かない事例が発生したが、今年度はシステム更新により今のところ問題は起きていない。

・査読者より二重投稿の指摘あり（インターネット上で公表されている、査読なし）。

他の査読者の評価も低かったため不採択

講演会のみか、本論文掲載を希望しているか投稿時に確認できない。

CEJ で掲載されたものを講演会で発表することは可能。第 1 段査読では考慮せず、第 2 段でチェック。

・セッション割り当て

講演数 200 は枠を確保済み。

・著者負担金と論文集（ダウンロード）価格

著者負担金　40,000 円（上限）（見込み 35,000 円）

各論文投稿に対し，論文集 DVD を配布予定

論文集 DVD のみの頒布も予定： 3,000 円程度

特別号論文掲載＋発表：35,000 円（従来案）→ 40,000 円

要旨論文＋発表：20,000 円（従来案）→ 25,000 円

・Jstage 掲載料が 1.5 倍に値上がりする（北大生協→アイワードに変更のため、土論と同額に）が、負担金の増額をできる限り回避したい。

■第 70 回海岸工学講演会の準備状況について（原田）

・実行委員会：後藤（京大、委員長）、森・志村・宮下（京大防）、原田・五十里・清水（京大）、荒木・佐々木（阪大）、遠藤・中條（大阪公立大）

・後援： 国土交通省近畿地方整備局(名義使用許可申請済)，京都府(手続中)

・日程： 2023 年 11 月 14 日（火）、15～17 日（金）

・会場： 京都テルサ（京都市南区）京都駅から徒歩 15 分

・懇親会、見学会：実施しない

・講演会+APAC2023 同時 Hybrid 開催

・京都テルサ（予約済み・約 160 万前払い済み．ただし，令和 5 年度予算にて）

準備のために実際の支払いが前もって生じることとなっており、R4 年度の予算で支払う予定だったが、監査からの指摘があり R5 年度予算で支払いを行った。

・ハイブリッド

ハイブリッド開催の方針に変更なし。

横須賀開催では、ハイブリッド費用に 165 万円を使用した（京都も同額を計上）。

見積もりが高額であり、業者を入れてのハイブリッド運用は厳しい。

・開催経費

433 万円程度（会場費、アルバイト代等 268 万円＋ハイブリッド費用 165 万）で前回から変更なし。

・会場割り振り

委員会室を設けず、ハイブリッド会場を 5 → 4 へ。テルサホール使用しない。

■APAC について

・291 編の Abstract 投稿あり。（発表予定者数 208 名）

・当初予定の発表件数 208 件を堅持すると、83 件が不採択（採択率 70%）。

・APAC の発表時間を 20 分から 15 分に変更し、最終的な採択率 90%程度。

・審査結果

2 名査読×20 点で、18, 17, 16, 16 だった 4 名を reject（特定の査読者の影響なし、採点結果は 1 点差以内）

287 名を採択し、通知済み（3 月 13 日）。

採択数増に伴い、発表会場を一つ追加する（第 2 会議室：63 名）

・要旨通過原稿は全て EA 提出（6 月 10 日まで）

・登録料金について

JTB 登録システム円建て（ドル建て不可能）

Early bird　35,000 JPY　8/30 まで（8/31 以降　50,000 JPY）

要旨査読通過論文の発表者は全て Early bird で申し込み。Early bird で申し込まないと口頭発表できず、Proceedings にも載らない（プログラム作成上の制約のため）。

一般参加者は 8/31 以降も 10/13 まで申し込み可（登録料：50,000 JPY）

登録料はシステムを通じてのみ、返金不可。

・ハイブリッドでの安定したネット回線確保のため 100 万円を準備。

・採択数を予定数より増やしたため、会場 1 増（第 2 会議室 63 名）、JTB システム利用者増による料金増で合計 620 万円程度の費用が見込まれるが、登録者増により 800 万程度の収入が想定されるため、赤字にはならないと想定している。

・JTB には 100 万円を R 4 予算で支払い済み。

・APAC は投稿者増により収支が取れる。海講は厳しい。行事予算の収支になるため、赤字分は来年度の予算から差し引かれる。活動数が多ければ、予算がもらえる。

■第 71 回海岸工学講演会の準備状況について（渡辺）

・秋田開催：2024 年 11 月 6，7，8 日 （5 日に前日準備）

・2 会場で開催、1 会場でハイブリッド併用、の 2 案が提案され、幹事会で検討。

・2 会場の場合、会場間の移動に 5 分程度必要。ハイブリッド併用では 1 部屋の収容人数が 73 名と少ない。

・ハイブリッド料金、240～350 万円（医学系学会での開催実績。フル機材を揃えた場合、横須賀のハイブリッド経費は 160 万円。京都は 200 万円。）

・実行委員会 12 名のうち秋田県内は２～３名、ほかは隣県のため、２会場開催は現実的に難しく、ハイブリッド開催を検討すべき。

・懇親会を行う場合、キャッスルホテル、ＡＮＡクラウンプラザホテルが候補。懇親会は実施する方向だが、実行委員長と相談して決定（LOC で決定して良い）。

１会場でハイブリッド開催とし、広報・出版・Web 小委員会で支援することに決定した。小委員会への負担軽減のため、前回開催が支援する方法も考えるべき。

→横須賀のオンラインのやり方を参考に、比嘉先生とコンタクトをとって検討予定.

⇨幹事会では以上の結論であったが，幹事会終了後に，施設の担当者と改めて確認したところ，施設側の確認ミスで，小さな部屋でも定員１００名であることから，ハイブリッドの準備不要で，対面のみによる開催を決定した.

■第 58 回水工学に関する夏期研修会(Ｂコース)開催について（北海道）

・日時：2023 年 8 月 31（木）～9 月 1 日（金）

・会場：北海道大学工学部（対面のみ）

オープンホール（定員：364 名）→共通講義（8 月 31 日の午前中）

B31, B32（定員：どちらも 168 名）→A，B コース

・テーマ・講師（講師依頼を実施中）

水工学に関する国際的話題，今後我が国で取り組むべき課題（水工が担当）

Ａコース：清水康行（北海道大学，※基調講演），泉典洋（北海道大学），山田朋人（北海道大学），田中規夫（埼玉大学），片岡智哉（愛媛大学），椿涼太（名古屋大学），手計太一（中央大学）

Ｂコース：佐藤愼司（高知工科大学，※基調講演），森信人（京都大学），内山雄介（神戸大学），田島芳満（東京大学），有働恵子（東北大学），伊藤一教（大成建設），渡部靖憲（北海道大学）

・趣旨：ＩＦ等の指標を重視した評価がされる時代になる。気候変動、海岸の脆弱など国際的に解決しなければならない問題をどのように解決していかなければならないかを考える時代になる。若手の国際意識、知識、モチベーションの向上を目指す。

・対面のみだが、北海道開催であり、周囲の方に周知をお願い。
・学生向けのアドバイスを散りばめた内容を考えている。
・タイトル、要旨が出てきた段階でシェアして欲しい（海岸だけでも可）
・ディスカッションを含めることについて、チャットで質問の受付を考えていたが、委員会までにもう少し考える。

■第 59 回水工学に関する夏期研修会(Ｂコース)開催について
・海岸が担当。
・2024 年は関西開催で決定。（取りまとめ大阪公立大・遠藤先生）

■Coastal Engineering Journal について（内山）
・メンバーの入れ替えを行なった。
- 高木（東工大、2 月より）が副小委員長兼 Associate Editor-in-Chief（有働先生と 2 名体制）。
- 鈴木（横国大）が Editor に（Associate Editor から）。
- Associate Editor に若手（五十里（京大）、猿渡（北大）、鶴田（港空研）他 3 名）を拡充（合計 27 名）。

・IF が 3.289 に上昇（2019 年 2.032、2020 年 3.216）
・出版までにかかる時間を短縮する取り組み。
- 投稿から最初の査読結果まで平均 12 日、第 1 回目の査読結果が出るまで 53 日、アクセプトからオンライン公表まで 23 日。
- Associate Editor-in-Chief で投稿時にスクリーニングを行い査読に回すのは 55%、そのうち、採択率 58%

・CEJ 2022 Sept., Vol. 64, Issue 3 が紹介された（6 編で構成）。
・CEJ 2022 Dec., Vol. 64, Issue 4 が紹介された（9 編で構成、最後はテクニカルノート）
・CEJ 2023 Mar., Vol. 65, Issue 1 が紹介された
「SI on Coastal Disasters in Asia: Forecasting, Uncovering, Recovering, and Mitigation」Editorial 1 編+論文 9 編で構成。
・2024 CEJ の進捗状況が報告された。
- Special Issue on Progress of Ocean Wave Measurements
- エントリーは 14 編（フルペーパーは 3 編のみ投稿済み），Review paper 予定

・投稿数・国別内訳
- 2022 年 143 編（過去最多、日本 25 編）。アジア（中国、インド、日本）が多い。北米、南米、ヨーロッパ、中東からの投稿あり。
- 2023 年は 4/11 時点で 41 編の投稿あり。

・CEJ Award 2022

- 2022 年に出版された全 36 編が対象。各担当エディターが受賞候補論文を推薦＋Associate Editor を含む全エディターによる推薦
- 8 編の候補論文が推薦され，Editor-in-Chief と Associate Editors-in-Chief が 3 編に絞った最終選考候補論文を全エディターによって全文審査を実施。

Krautwald さんらの論文（Large-scale physical modeling of broken solitary waves impacting elevated coastal structures）を受賞者とした。

・CEJ Citation Award 2022

- 過去 5 年間（2018-2022）の Web of Science, Core collection の引用数で評価。
- 上位 2 件が既受賞だったため、３、４位を比較したが同数で Editorial Board で審議し、以下の 2 件を受賞者とした。
  森先生らの論文（Future changes in extreme storm surges based on mega-ensemble projection using 60-km resolution atmospheric global circulation model）
  Wüthrich 氏らの論文（Experimental study on the hydrodynamic impact of tsunami-like waves against impervious free-standing buildings）

・JAMSTEC 中西賞推薦論文

- 海岸工学委員会で推薦、海洋工学会で表彰。
- 国際的に活躍する日本人を支援するため、CEJ から推薦。
  豊田先生らの論文（Future changes in typhoons and storm surges along the Pacific coast in Japan: proposal of an empirical pseudo-global-warming downscaling）を推薦することとした。（CEJ Award の次点）

・CEJ Reviewer Award 2022

- 査読回数上位 12 名のうち、4 編以上を平均遅延 0 日で完了した 8 名を表彰.
- T&F の HP で氏名を公表し，Certificate を電子発送.
- 表彰のタイミングは 6 月の委員会で承認後，CEJ Award 等と合わせる.

・CEJ 契約・投稿などに関する変更点

- 年間の掲載論文の義務が総ページ数から論文本数に変更され，年間 37 編以上が努力義務に．昨年 36 編，一昨年 38 編であり，これまで通りで達成できる見込み．Submission portal が EM→T&F 管理の新サイトへ移行した。投稿時のキーワード選択の仕様が変更（用意された Classification からキーワードを選択）.
- 著者からの potential/suggested Reviewer の推薦は受け付けない.

幹事会で承認後、委員会で最終承認する。

■沿岸域研究連携推進小委員会（遠藤）

・前回の海岸工学講演会において、メンバーを一新して第 1 回目の委員会を開催した。

・沿環連での活動が縮小している一方、当小委員会は常設になり、新たな方向性で活動する必要あり、第７０回海岸工学講演会で企画セッションを提案している。

・今後の沿岸域連携推進小委員会の取り組みについて、連携の在り方やターゲットなどの議論するための、パネルディスカッションを実施。

■広報・出版・WEB 開催小委員会（荒木）

・メンバーに若手を追加（井出（九大）、比嘉（横国大）、二宮（金沢大））。
・デジタルツイン小委員会のＨＰなどを手がける。
・70 回海岸工学講演会（京都）、APAC でハイブリッドの対応を手伝う。
・70 回海岸工学講演会の論文集出版はこれから作業、広告募集も手掛ける。
・69 回横須賀での後日 zoom 録画配信はどうだったか？

当日は zoom の参加者は多い。別会場、同じ会場でもスライドが見えない方など。
You tube のライブ配信は、ずっと張り付いている必要があり、できればやめたい。
当日、後日 zoom 録画配信は対応する予定。

■研究小委員会，研究会，WG の活動について（事前送付）

・沿岸まちづくりにおける経済学的手法検討小委員会（安田）

幹事会は随時開催。
小委員会のほか、東伊豆町で連携の打合せ、徳島県、高知県において検討会を実施。

・沿岸災害デジタルツイン研究小委員会（越村）

昨年度設立、幅広いメンバー（61 名）で活動。
これまで 2 回全体会議を開催し、6 月に第 3 回目を予定。
土木学会 2023 年度重点研究課題に採択（2023 年 1 月 24 日）された。
AOGS（2023 年 7 月）で企画セッション開催（7/31）。

・波動と地盤の複合場における地盤材料の取扱方法に関する研究会（事前送付のみ）
・沿岸域における気候変動適応策に関する研究会（事前送付のみ）
・波動モデル研究会（事前送付のみ）
・地域研究活性化 WG（事前送付のみ）

■その他

・2022 年度予算報告（北野）

➢ 京都テルサでの既に費用発生を伴う一部支払い、JTB 受付サーバーへの支払い、小委員会・研究会・WG の会議開催旅費などの支出について，2022 年度予算での支払いを予定していたが、監査の指摘により京都テルサならびに研究会の WEB サービスの一部へ支払いはできませんでした。

・サーバーセキュリティ対策特命 WG（川崎）

➢ 海岸工学委員会サーバー管理・運用、メールアドレス・メーリングリスト（cecom）の管理・運用、新論文投稿・査読システムとの連携を検討。

- ３つ目のサーバーを借りた（さくらインターネット）。費用は 2,100 円程度で、セキュリティ設定も含めてさくらインターネットが行う。
- 現行のさくらの VPS 契約（43,560 円）からレンタルサーバーに切り替えることで 17,369 円の費用が削減される。
- レンタルサーバーへ移行に 100 万円程度がかかったが、過去の残額と相殺して 16 万円の残がある。
- 今後、cecom メーリングリスト「xxxxx@cecom.coastal.jp」に移行（2023 年 5 月末完了を目指す）。新アドレスの xxxxx は大勢に送ることがわかる名前にする。

・海岸工学論文投稿査読新システム検討特命 WG（北野）

メンバー：山城、下園、北野、鈴木、五十里

WG での検討項目と質疑概要は以下のとおり。

第 1 段査読は Google Form でテキスト（本論文の要旨と同じ 350 字を想定）のみ、本論文から EM で進める.

Extended Abs.の提出は求めず，テキストのみのアブストラクト集とする。

→350 文字では点数評価が難しく，点数評価はしない．スクリーニングである.

→現在の 2,000 字では、項目立てを行う過程で論文の構成が出来上がっている。350 字の要旨では論文を書き始めると変わってしまう恐れがある点に懸念か？

大まかな検討スケジュール

夏～秋まで：詳細の詰め

9 月幹事会：おおよその形を提示

11 月委員会：概略案を提示

12 月～：cecom で連絡

来年の 4 月上旬：投稿者に説明（zoom 会議、録画も公開).

→今年の海岸工学講演会で説明会があった方が良い。これを想定すると 10 月までには決めていくスケジュール。

投稿審査フロー：著者→幹事（副小委員長）→担当編集委員（主査）→査読者（副査２名）→（査読対応のやり取り）→印刷会社

投稿を受け付けた時点で課金（4,000 円程度/編、土木学会全体の投稿数により単価が変わる）されるため、幹事で投稿を受け付けるか判断する。

第 1 段階査読→講演会発表審査、第 2 査読→Jstage 論文審査に名称を変更。

論文発表審査は GoogleForm にて主査と cec でスクリーニングし、論文番号を付与。Jstage 論文審査を EM で実施。

→論文発表審査の要旨の評点はつけない。

→論文発表審査は、講演して良いかの審査。問題が無ければ，基本全部受け入れる（全部受け入れると 270 編程度)。

→本数のコントロールが難しいのでは？Jstage 論文審査は、数にこだわらずに内容だけで審査する。講演会のスロットは，講演会発表審査で決まる．

→リジェクトは従来通り cec で相談して決定。採択する場合は cec が直接には関与しない（が，これまでも，ほぼ同じような対応ではある）．

幹事長は、各論文に主査と副査を割り付ける。副小委員長は、担当編集委員（主査）を EM に登録（小委員長と幹事長が確認）。担当編集委員(主査)は査読者（副査）を EM に登録と同時に幹事長は論文ならびに主査、副査全てを id に変換した表を作成し、それを査読者に共有。(担当漏れを防ぐためであり、一括送信のため)

EM での論文評点は通常号と同じ 4 段階合計 16 点（論文賞を決めるための基礎点）．

→現在の論文評点は 90 点（1 段 6×5+ 2 段 20× 3 ＝90)。なお，上位の論文に対して，改めて全文査読のため，特に問題は無い．

査読者から著者への報告、著者からの修正に対してデッドラインを決めて早期提出、早期返答で、主査及び著者は順次処理する。

→他委員会の特別号もシステム上で見えるため、副査は査読の進行管理を慎重に。

案１）１年目はなるだけ従来と同じスケジュールにする。

案２）査読が原則２順でできるスケジュールを組む。第１段審査が簡素化する分、3 月中旬に決定。本論文の提出締め切りを 4 月末とする。

→案２では２巡目で査読が終わらない場合は、リジェクトされる。リジェクトされた論文を通常号の EM に再投稿することは可能。

→企業の立場からは年度またぎの納期が多くあり、4 月末は忙しい傾向にあるが、350 字で投稿できるのはハードルが下がる。このことを海岸工学講演会で説明する際にアピールすると良い。

その他の議論

・投稿分野が細かく分けすぎているので、簡素化してはどうか？という意見はあるが，プログラム作成の際には，分野の詳細は非常に助かる．継続したい．

・これまで通りやるイメージか？土論と同じに変わるイメージか、メッセージを出すと良い（人によって温度差があるため)。

・EM を使うと査読が厳しくなる傾向にあり、採択率が下がる懸念がある。

・原則８～９割採択することを想定して、査読は救ってあげるためのやり取りとなるように，主査には，心がけていただきたい，と考えている．

2024 年は案 1（今と同じスケジュール）で行うことを決定。いずれ案 2 に変更することを検討するが、案 2 はスケジュール詳細を検討し，実行可能かどうかなどスケジュール上の問題点を洗い出し，特命 WG でさらに議論を深める。

・ICCE 報告

2022 年 12 月にシドニーで開催（オンサイト)。850 人が参加。投稿数は２割程度減。

減ったのは主に東アジア（日本、中国、台湾、韓国）でヨーロッパは変化なし。
次回は 2024 ローマで夏頃に Call がかかる見通し。2026 テキサスで決定。2028 日本に打診あり。